



Luminox



過酷な成層圏の中、生身の状態で時を刻む。

ふうせん宇宙撮影の岩谷圭介氏プロデュース。 成層圏へ生身の腕時計を打ち上げる前代未聞の耐久実験。 ディレクターズカット版映像を公開。

2015年10月19日（月）、（株）リベルタ（東京都渋谷区桜丘町26-1セルリアンタワー5階 代表取締役 佐藤 透）日本正規販売元にて取り扱うスイスウォッチブランド「Luminox（ルミノックス）」にて実施した、ふうせん宇宙撮影・岩谷圭介氏プロデュースの「SPACE BALLOON—宇宙までの耐久実験—」のドキュメンタリー映像に、ルミノックス・ライト・テクノロジーのイメージを追加したディレクターズカット版を、Luminox公式WEBサイト（<http://luminox.jp/space-balloon6.html>）へ公開いたしました。

【ディレクターズカット版 SPACE BALLOON—宇宙までの耐久実験—】

個人による宇宙開発「ふうせん宇宙撮影」を確立した発明家・エンジニア・アーティストの岩谷圭介氏プロデュースによる「SPACE BALLOON—宇宙までの耐久実験—」。成層圏へ生身の腕時計を打ち上げるという、Luminoxが実施した前代未聞の耐久実験を記録。さらに、Luminox最大の特長でもある自己発光システム「ルミノックス・ライト・テクノロジー」のイメージを追加しました。

< LONGバージョン > <https://www.youtube.com/watch?v=V451fN1nJmU>

実験は順調と思ったその時、予測不能の事態が。その一部始終をご覧ください。

< SHORTバージョン > <https://www.youtube.com/watch?v=Igdrt7ut98>

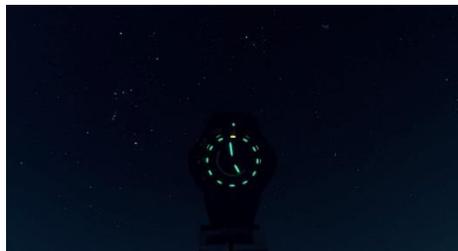
実験は順調と思ったその時、予測不能の事態が。その全容をコンパクトにまとめました。

< 180SECバージョン > <https://www.youtube.com/watch?v=OCC7kWt9HeA>

打ち上げから落下着地、回収まで。
実験数値とともに、美しい地球を背面にしたLuminoxウォッチにご注目ください。



打ち上げ直前。約2時間のフライトへ。



ルミノックス・ライト・テクノロジーのイメージ。



落下着地したLuminoxウォッチは、ぶじ動いていた。



しかし、予想外の出来事がフライト中に起こっていた。

【今回の「SPACE BALLOON—宇宙までの耐久実験—」でわかったこと】

時計単体で宇宙へ上昇する場合、動き続けるのはむずかしい。
一方で、宇宙空間に達すれば時を刻み続けることが判明し、極めて高い実用性が証明された。

使用モデル：ORIGINAL NAVY SEAL 3000 SERIES Ref.3001.RH.JL / 最高高度：34,400m / 最低気温：-66.6℃ / 最大温度差：89.8℃ / 最低気圧：7hPa / 最大気圧差：1,001hPa / 最高速度：340m/s

※事前に実施した、装置による宇宙実験の成功を受けての結果です。<https://www.youtube.com/watch?v=c7dsnffv5zs>
※実験の数値は、計測した高度データをもとに気圧・気温データを算出しています。



Luminox

Luminoxについて



アメリカ人のバリー・S・コーエンが、他の腕時計とは一線を画するコンセプトで開発したLuminox（ルミノックス・SWISS MADE）。

その原点は、米海軍特殊部隊Navy SEALsからの
タイムピース開発要請に始まり、以来25年以上に渡り
実用性と耐久性を追求し続けています。

「いつ、いかなる状況であっても時刻の確認ができる」という

厳しい要求に、優れた耐久性、軽量性、防水性で対応。

軍、警察、消防などの公的機関や宇宙パイロットをはじめ、
エベレスト登山隊、レーシングドライバー、ダイビングカメラマン、
エクストリームスポーツのアスリートなど、極限のフィールドで
活躍するプロフェッショナル達が支持しています。